

異国の若者へ職業観を伝える

わが家にコール君がやってきた。コール君は、国際ロータリー第2800地区の青少年交換留学生。所属する新庄あじさいロータリークラブがホストとなり、1年間受け入れを行うこととなった。留学生を受け入れるにあたって、クラブではホームステイ先をどうするかということが一番の課題だった。

会長職を引き受けたこともあって、わが家でも3ヶ月、受け入れを行うことになった。ホームステイの受け入れ経験がまったくないわが家にとって、正直不安でしかなかった。受け入れを快諾してくれた家族には本当に感謝している。そしてこの秋、コール君との生活がスタートした。

私は新庄市で父の後を継ぎ、外壁塗装や屋根塗装をメインとした塗装業を営んでいる。「社会の変化に負けない企業をつくり、社員の安心安全を第一に守る」を社長の決意として掲げている。私たちを取り巻く社会環境は、刻々と変化している。私たちが小さかった頃に比べるとそのスピードはどんどん加速し、1年先の世の中がどうなっているのか全く読めない時代になってきている。予測不可能な時代の中で、社員の暮らしを守ることは決して簡単なことではない。それでもその変化にしっかりと対応し、社員ひとりひとりを大切に思い、安心安全を提供できる企業、そして社長でありたいと日々思っている。

コール君と日々の暮らしを共にすると、新しい気づきを得ることがある。それは異なる文化だったり、考え方だったり、ものの見方だったり様々だ。

コール君にも異国での暮らしを通して、自分とは異なる考えや思いに触れ、それを受け入れ、自分自身の成長につなげて欲しいと強く願っている。自分と異なる思いや考えに触れることは人の成長につながる。その成長こそが、変化し続ける世の中に順応していくための必須条件だと考えている。私がコール君に伝えたいことは、まさに会社で掲げている自身の社長の決意そのものであると改めて気づかされる。

自身の職業上の経験を通じて得たことを、コール君のような若い世代に伝えることによって、それがまた受け継がれていく。ロータリーの職業奉仕の理念の素晴らしさを実感している。さらにそれが国を超えて伝えられることに幸せを感じる。

正直、ホームステイを受け入れる前は不安でいっぱいだった。今では私の母も4人目の孫のようにコール君をかわいがってくれている。そして看護師という職業をもちながら、私の一番の理解者としてコール君の受け入れをサポートしてくれている妻も、まるで4人目の子ども同然に接してくれている。

職業を通じてロータリーに出会い、そしてロータリー活動を通じて、自分の職業に対する思いを若者に伝えられている、何よりも尊い経験に、今は感謝しかない。私の今の夢は10年後のコール君に出会うこと。そしてお互いの職業観を語り合うことだ。